

「ハーバード白熱教室と隻手の声と藤田屋の大あんまき」の関係

皆さんこんにちは！

以前、NHKで話題になった番組「ハーバード白熱教室」。サンデル教授の授業の中でこういう質問がありました。

あなたは路面電車の運転士で、時速60マイル(約96キロメートル)で疾走している。前方を見ると、5人の作業員が工具を手に線路上に立っている。電車を止めようとするのだが、できない。ブレーキがきかないのだ。頭が真っ白になる。5人の作業員をはねれば、全員が死ぬとわかっているからだ。

ふと、右側へとそれる待避線が目に入る。そこにも作業員がいる。だが、1人だけだ。路面電車を待避線に向ければ、1人の作業員は死ぬが、5人は助けられることに気づく。

どうすべきだろうか？

↑ジレンマですね。命の重さは本当に数で決められていいのか？そもそもあなたは5人の命を救うためにハンドルを右に切って罪のない一人の作業員を犠牲にできるのか？

こう問われるとゴルゴ13系以外の人間は答えが出せないで、脳の中の「情」の回路と「理」の回路が頻繁に入れ替わり発熱し、絶縁不良またはショートする恐れがあります。

我々の現場においてもジレンマは発生します。先日も苦しみました。

どういうことかと申しますと、現場でシャフトと軸受けの交換をするつもりが、ファンの羽根車が抜けなくて大苦戦。もう少しで抜けるかもしれないというところまで行ったのですが、ここでもう少し力を加えらばもう少しで抜けるかもしれないけど、羽根車を壊してしまう可能性もある。壊れると破片が作業員に飛んできて非常に危険。じゃあ今日はやめておこうか？でもそうすると来週もう1回挑戦することになる。来週のスケジュールはもういっぱい。他の現場が手薄になってしまい逆にミスを引き起こすことになりはしないか？そう考えるとここは少し強引でも何とか作業を完了させておかなければいけないか。。。でもこういう時こそ何か起こるんだよな。ブツブツブツブツ。。。。。(※結局翌週に再挑戦して結果的に無事なんとかかなりました)

↑こんなジレンマに現場で陥ったことはないでしょうか？どちらにしても危険性が伴う。どちらの選択が正しいのか？結論が出ない。「じれて片目をつむって強引に作業した結果、失敗してしまったトラウマ」と「やればできるのに勇気を出して挑戦しなかったモヤモヤした後悔」。この両方が耳元で何かを囁き決断の鈍らせ、脳の機能低下または危険軽視行動に作業員を導いていきます。

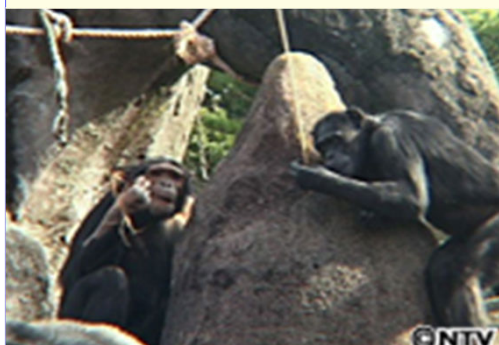
以上のように「ジレンマ」は作業現場におけるヒューマンエラーの重大要因なのですが、サンデル教授のテキストにも、建設業のヒューマンエラーのテキストにもジレンマ予防対策は載っていません。

Q1.では現場でジレンマが発生した時いったいどうすればよいのでしょうか?(49歳 機械工)

A1.はい、それは江戸時代の禅僧、白隠さんが「隻手の声」という公案を弟子に与えて予防していたことにヒントがあります。

公案「隻手の声」とは「両手をたたくと音がパン！とするけど片手だとどんな音がする？」という禅の質問なのですが、この質問を与えられた弟子は非常に困惑します。「え～、両手でパン！片手で??」

真剣に考えて答えを出さないと弟子をクビになるので必死で三日三晩考え、「ヒュ～ン！ですか！」
「バカモノ！喝～！」、七日七晩考え、「無音だと思います」「バカモノ！帰れ～！」、三十日三十晩考えて「ム、シーン。。。」「喝!!!!!!」とこの繰り返しばかり。実はもともと答えの出ない質問を弟子にとことん考えさせているんです。悩んで悩んで考えて周りが一切見えなくなっている自分にふと気づき笑えるくらいになるまで考えさせる公案なんです。思考に没頭しない修行なんです。人間は思考に没頭してしまうとアリの巣に棒切れを差し込んで一心不乱にアリを食べているチンパンジーと大差がなくなってしまうという愚かさ、せつかくの雄大な富士山が背景にそびえているのに、その風景を楽しむことなく「下に～下に」と続く緊張した大名行列のような滑稽さへの気づきを禅は求めているといえます。



我々の作業現場においても、ドはまり状態のときは、単眼的な視野で硬直した発想を解きほぐす気づきが必要になります。それではどうすればよいか？それは、

甘いもの喰って一息ついて笑って我を取り戻して俯瞰して全体を見渡し作業再開！

そうすると不思議と第3の道がぱっと開けることもあります。予期せぬ助っ人登場とか。普段使用してない工具が大活躍とか。普段無口な人がぽろっと画期的アイデアを口にするとかetc。。。。

知立名物藤田屋の大あんまきにテクアのご安全に！の刻印を押した**テクアんまき**を作りました。

3. 17安全大会の時に配ります。パトロールの時にも時々持参します。



考えても答えの出ない理不尽な問題が世の中には多々存在しています。哲学的に深く考えることは人間にとって非常に大切なことですが、それらに捕らわれ困惑されて一番大切な自分という存在のエネルギー漏れを起こさないよう、いつも生き生きとした人生にする為に禅の知恵はあります。

哲学と禅の関係は、はまり現場と藤田屋の大あんまきの関係に似たり！！

ご安全に！

羽原篤史

